



CLIMATE CONTROL: Brainwashing in schools

学校での気候洗脳

教育に入り込む気候活動家の影響

Andrew Montford and John Shade

アンドリュー・モントフォード & ジョン・シェード

The Global Warming Policy Foundation

GWPF Report 14

GWPFレポート

地球温暖化政策財団の刊行物での見解は、著者のものであり、GWPFおよびその評議員、学術諮問評議会委員、理事たちの見解ではありません。

地球温暖化政策財団 THE GLOBALWARMING POLICY FOUNDATION

局長

Benny Peiser

理事会

Lord Lawson (Chairman)

Baroness Nicholson

Lord Donoughue

Lord Turnbull

Lord Fellowes

Rt Revd Peter Forster, Bishop of Chester

Sir Martin Jacomb

学術諮問評議会

Professor David Henderson (Chairman)

Professor Richard Lindzen

Adrian Berry

Professor Ross McKittrick

Sir Samuel Brittan

Professor Robert Mendelsohn

Sir Ian Byatt

Professor Sir Alan Peacock

Professor Robert Carter

Professor Ian Plimer

Professor Vincent Courtillot

Professor Paul Reiter

Professor Freeman Dyson

Dr Matt Ridley

Christian Gerondeau

Sir Alan Rudge

Dr Indur Goklany

Professor Nir Shaviv

Professor William Happer

Professor Philip Stott

Professor Terence Kealey

Professor Henrik Svensmark

Professor Anthony Kelly

Professor Richard Tol

Professor Deepak Lal

Dr David Whitehouse

CLIMATE CONTROL: Brainwashing in schools

学校での気候洗脳

教育に入り込む気候活動家の影響

Andrew Montford and John Shade

アンドリュー・モントフォード & ジョン・シェード

(翻訳: 山形浩生)

© Copyright 2014 The Global Warming Policy Foundation

著者について

アンドリュー・モントフォード

アンドリュー・モントフォードは著述家兼ブロガーであり、『ホッケースティックの妄想』著者として知られる。GWPFでは、クライメートゲート調査や王立科学協会についてなど、いくつかのレポートを執筆。学童三人の父親。

ジョン・シェード

ジョン・シェードは統計専門家。大学で物理が卵を学び、世界最貧層の運命についての懸念と、気候モデルが彼らの運命を改善するという信念のため、インペリアルカレッジで大気物理学の修士号を取得。しかしこの分野における有意義な進歩が見られないのに幻滅し、学術界を離れ、まずは気象学者、さらには産業界向け統計研究者として働き、その過程で統計学修士号も取得。現在は引退し、世界中の学校における環境活動家による教化問題を扱った、Climate Lessonsブログを執筆。

Executive Summary

私たちは学校の教材で、気候問題の不適切な扱いによる深刻なまちがい、誤解を招く主張、偏りの事例を発見した。こうした教材の中には、広く使われている教科書や、教師用の指導手引き資料、生徒の研究プロジェクトなどが含まれる。

学校内部や、学校が生徒たちに参加を促すイベントで、環境アクティビズムが幅をきかせている例が見られた。問題となるあらゆる事例で、気候変動について脅し、怯えを煽ってから、生徒たちがどう生きるべきかについて細々した指導が掲げられ、さらにどう考えるべきかまで指図が行われる。一部の例では、校内に「小さな政治活動家」をつくるよう奨められている。生徒の側にも「地球を救う」ための行動の責任を負わせるもので、その行動の大きな部分は、親たちに圧力をかけることとされる。

イングランドの全国カリキュラムは先日、政府による見直しを受けたが、提案された変更を見ると、こうした手口を防ぐのは困難だろう。

各種調査では、気候に起こっていることについて、多くの子供たちが動揺し怯えていることが示されている。

教師や教育当局は、カリキュラムの狙いに沿う限り、教科書や各種教材、外部講師、見学旅行などをかなり自由に選べる。このため、一部の人々が子供たちを「環境保護の大義」に引き込もうとして、極度に警鐘的で政治的に偏向した情報源を選ぶリスクが生じる。この「大義」はしばしば「持続可能性」なる概念を通じて示されるが、これはまともに定義もされていないようなお題目であり、ほとんど根本的な批判を受けていないような政治活動や個人行動をも含むものとなっている。多くの運動好きなNGOや、エネルギー企業など既得権益を持つ組織は、学校向けの教材などのリソースを提供している。その一部はおそらく実際に使われているのだろう。

これは明らかに、深刻に懸念すべきである。したがって私たちはイングランド教育大臣と、スコットランド、ウェールズ、北部アイルランドの教育行政の長たちに、学校における気候変動教育について即座に調査するよう訴えるものである。実際に起こっていることを系統的に評価して、こうした教化がどれほどのもので、その結果として生徒たちにまちががなく生じているはずの、情緒的、教育的な被害がどの程度かを明らかにしなければならない。

GWPF BRIEFINGS

1	Montford	The Climategate Inquiries
2	Ridley	The Shale Gas Shock
3	Hughes	The Myth of Green Jobs
4	McKittrick	What Is Wrong With the IPCC?
5	Booker	The BBC and Climate Change
6	Montford	Nullius in Verba: The Royal Society and Climate Change
7	Goklany	Global Warming Policies Might Be Bad for Your Health
8	Hughes	Why Is Wind Power So Expensive?
9	Lilley	What Is Wrong With Stern?
10	Whitehouse	The Global Warming Standstill
11	Khandekar	The Global Warming-Extreme Weather Link
12	Lewis and Crok	Oversensitive
13	Lewis and Crok	A Sensitive Matter
14	Montford and Shade	Climate Control: Brainwashing in Schools

地球温暖化政策財団（The Global Warming Policy Foundation）は、すべての党を含む無党派シンクタンクであり、登録済み教育慈善団体です。地球温暖化についての議論の分かれる科学については多様な見方を探る一方、現在促進されている多くの政策が持つ、費用面などの影響について深く懸念しています。

主な活動は、地球温暖化政策とその経済などの含意についての分析です。狙いは、最も頑健で信頼できる経済分析と提言を行うことです。何よりも私たちは、メディア、政治化や社会に対し、この問題全般と、彼らが現在あまりに曝されることの多い誤情報について、ニュースにふさわしい形で情報提供を行うことです。

GWPFの成功の鍵は、ますます多くの政策担当者やジャーナリスト、関心ある一般市民たちから私たちが獲得してきた信頼と信用です。GWPF の資金は圧倒的に、数多くの民間個人や慈善信託基金からの自発的な寄付からのものです。完全な独立性を明確にするために、エネルギー企業やエネルギー企業に大きな利害関係を持つ寄付は受け付けません。

地球温暖化政策財団の刊行物での見解は、著者のものであり、GWPF およびその評議員、学術諮問評議会委員、理事たちのものではありません。

GWPF についての追加情報およびこの報告書の印刷版をご希望の方は、以下までご連絡ください:



The Global Warming Policy Foundation
55 Tufton Street, London, SW1P 3QL
T 0207 3406038
M 07553 361717

www.thegwpf.org